



三井住友DS インカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

愛称:はぐくむニーサ(予想分配)



追加型投信 / 内外 / 資産複合



ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

委託会社 ファンドの運用の指図等を行います。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者登録番号:関東財務局長(金商)第399号

<委託会社への照会先>

ホームページ:<https://www.smd-am.co.jp>

コールセンター:0120-88-2976

[受付時間] 午前9時~午後5時(土、日、祝・休日を除く)

受託会社 ファンドの財産の保管および管理等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は左記の委託会社のホームページで閲覧できます。また、本書には信託約款の主な内容が含まれておりますが、信託約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に添付されております。ファンドの販売会社、ファンドの基準価額、その他ご不明な点は、左記の委託会社までお問い合わせください。

委託会社の概要



委託会社名 三井住友DSアセットマネジメント株式会社

設立年月日 1985年7月15日

資本金 20億円(2025年11月28日現在)

運用する投資信託財産の
合計純資産総額 16兆4,027億円(2025年11月28日現在)

商品分類・属性区分



商品分類		
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
追加型	内外	資産複合

属性区分				
投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
その他資産 (投資信託証券(資産複合 (株式、債券、不動産投信) 資産配分固定型))	年6回 (隔月)	グローバル (日本を含む)	ファンド・オブ・ ファンズ	あり (部分ヘッジ)

※属性区分の「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

※商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご覧ください。

- 委託会社は、ファンドの募集について、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2026年2月12日に関東財務局長に提出しており、2026年2月13日にその届出の効力が生じております。
- ファンドの商品内容に関して、重大な約款変更を行う場合には、委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に受益者の意向を確認いたします。
- ファンドの信託財産は受託会社により保管されますが、信託法によって受託会社の固有財産等との分別管理等が義務付けられています。
- 投資信託説明書(請求目論見書)は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。ご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。

ファンドの目的



投資信託証券への投資を通じて、世界各国の債券、株式、不動産投資信託（リート）に分散投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。

ファンドの特色



1 投資信託への投資を通じて、世界各国の債券、株式、リートに分散投資します。

■各資産への投資は、以下の投資信託証券を通じて行います。

資産	投資対象とする投資信託
日本株式	FOFs用配当フォーカスファンド(適格機関投資家専用)
グローバル株式*1	グローバル好配当株マザーファンド
日本債券*2	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド(適格機関投資家専用)
海外債券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド
リート	FOFs用Jリート・アジアミックス・ファンド(適格機関投資家専用)

*1 日本株式を含みます。

*2 日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関が発行する外貨建債券を含みますが、原則として対円での為替ヘッジを行います。

■投資信託証券は、投資対象資産、投資手法および費用等を考慮して選定します。

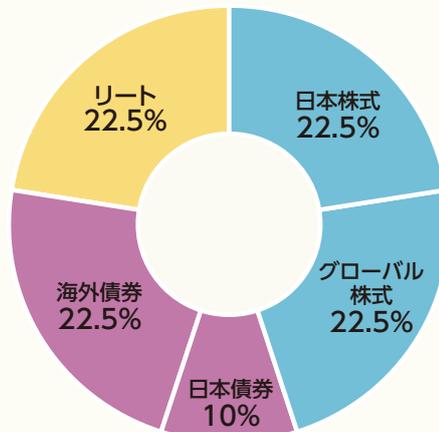
2 安定したインカム収益を長期的に獲得することを目的として、基本資産配分は原則として固定配分とします。

■それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。

■市場環境等が大きく変化した場合、基本資産配分の見直しを行う場合があります。

■ファンドの運用(各投資対象とする投資信託への資産配分および調整)は、運用部 マルチアセットグループが行います。

[当ファンドの基本資産配分]



※基本資産配分は、安定したインカム収益の長期的な獲得を目的とするとともに資産間のバランス等を勘案して決定します。ただし、投資対象とする資産やその配分比率は見直しを行う場合があります。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。上記の運用担当部署は2025年11月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

※運用担当部署の概要については、委託会社のホームページをご覧ください。

<運用担当者に係る事項>https://www.smd-am.co.jp/corporate/investment/pdf/org_structure01.pdf

3

実質組入外貨建資産の一部に対して、対円での為替ヘッジを行うことがあります。

■基準価額は、為替ヘッジを行わない実質組入外貨建資産に対する為替変動の影響を受けます。

4

原則として、奇数月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。各計算期末の前営業日の基準価額（支払済み分配金（1万口当たり、税引前）累計額は加算しません。）に応じて、原則として、以下の金額の分配を目指します。

各計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
10,500円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
10,500円以上11,000円未満	100円
11,000円以上12,000円未満	110円
12,000円以上13,000円未満	120円
13,000円以上14,000円未満	130円
14,000円以上	140円

※分配対象額が少額な場合、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。



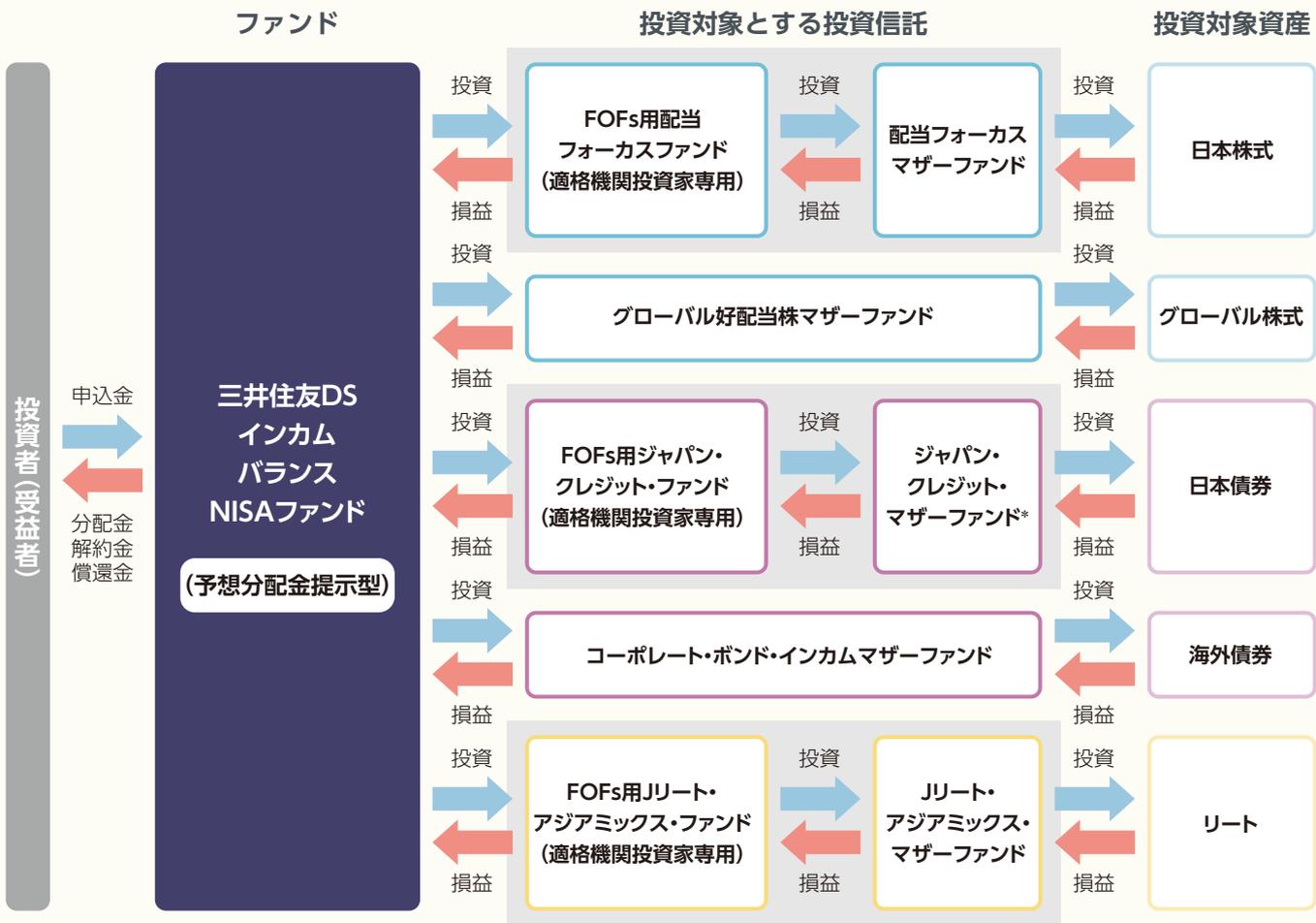
ご留意いただきたい事項

- 基準価額に応じて、分配金額は変動します。
- 基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- 分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。
- あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



*外貨建資産に対し、対円での為替ヘッジを行います。

※上記の投資対象とする投資信託は、2025年11月末現在のものであり、今後変更される場合があります。



委託会社が受け取った運用管理費用(信託報酬)の一部を、子育て支援等の活動を行う基金等へ寄付します。

主な投資制限

- 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
- 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

分配方針

- 年6回(原則として毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の15日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。
- 分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。
- 原則として、各計算期末の前営業日の基準価額(支払済み分配金(1万口当たり、税引前)累計額は加算しません。)に応じた金額の分配を目指します。ただし、分配対象額が少額な場合、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、当該計算期末の前営業日の基準価額に応じた金額の分配を行わないことがあります。

※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドは計算期間中の基準価額の変動にかかわらず分配を行う場合があります。分配金額は運用状況等により変動します。分配金額は計算期間中の基準価額の上昇分を上回る場合があります。

分配金に関する留意事項

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

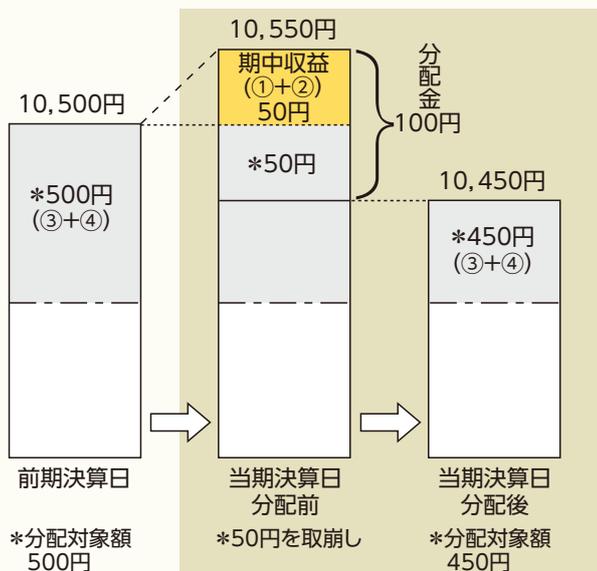


■分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

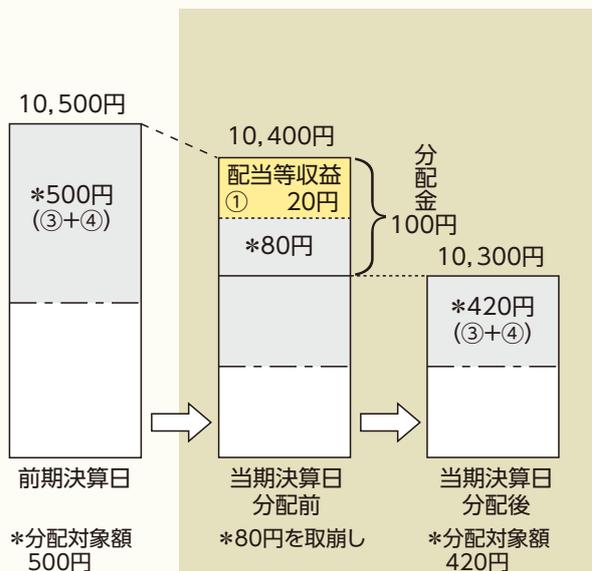
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）

〔前期決算日から基準価額が上昇した場合〕



〔前期決算日から基準価額が下落した場合〕

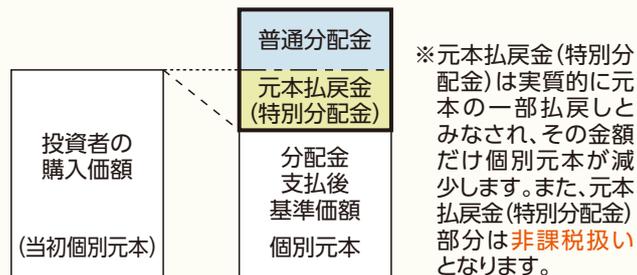


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

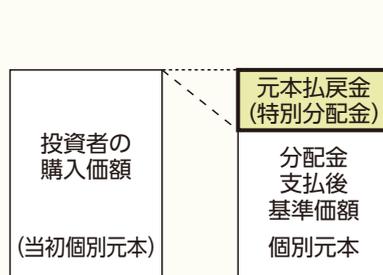
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

■投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

〔分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



〔分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

追加的記載事項



■投資対象とする投資信託の投資方針等

以下は、2025年11月末現在の情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。

●すべての投資信託に投資するとは限りません。

▶ FOFs用配当フォーカスファンド(適格機関投資家専用)

形態	国内籍投資信託
主要投資対象	配当フォーカスマザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● マザーファンドへの投資を通じて、企業の経営姿勢が現れる「配当」に着目して投資することで、中長期的な株価の上昇と配当収入による信託財産の成長を目指します。 ● ポートフォリオの約70%については、企業の配当政策と予想配当利回りの総合評価が相対的に高い銘柄に投資し、約30%については、委託会社が独自の手法を用いて算出した投資魅力度の高い銘柄に投資します。
主な投資制限	● 株式への実質投資割合には、制限を設けません。
信託報酬	純資産総額に対して年0.044% (税抜き0.04%)
委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

▶ グローバル好配当株マザーファンド

形態	国内籍親投資信託
主要投資対象	世界各国の株式
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各国の好配当株式に投資し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指します。 ● 配当利回りに着目しつつ、各銘柄毎の流動性、ファンダメンタル分析および増配期待等も勘案して投資します。 ● 北米、欧州、アジア・オセアニアの3つの地域へ概ね均等に投資することを基本とします。 ● 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● 株式への投資割合には、制限を設けません。 ● 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
信託報酬	ありません。
委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

▶ FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド(適格機関投資家専用)

形態	国内籍投資信託
主要投資対象	ジャパン・クレジット・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● マザーファンドへの投資を通じて、主として、日系企業*1が発行する債券等*2に投資します。 *1 日系企業には、日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関を含みます。 *2 債券等には劣後債が含まれます。 ● 投資対象とする債券は、格付けがBBB格相当以上の債券とします。 ● 各国金利見通しや個別企業調査に基づく銘柄選定を行い、業種配分、デュレーション、流動性などを勘案し投資します。 ● 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。 <p>※格付記号は、一般的な長期債務格付けを表示していますが、格付機関により異なる記号を使用している場合があります(以下同じ。)</p>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● 株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ● 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
信託報酬	純資産総額に対して年0.044% (税抜き0.04%)
信託財産留保額	一部解約時に0.3%
委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
購入の可否	日本において一般投資家は購入できません。

▶ コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド

形態	国内籍親投資信託
主要投資対象	米ドル建て投資適格社債等
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 主として、米ドル建て投資適格社債等に投資することにより、信託財産の成長と安定的な収益の確保を目指します。 ● 投資対象とする債券は、A格相当以上の債券を中心とします。 ● 個別企業調査に基づく銘柄選定を行い、業種配分や流動性を勘案し投資します。 ● 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ● 投資する債券は、国債および政府機関債等を除き、主要格付機関により、取得時においてBBB格相当以上の格付けを取得していることを条件とします。 ● 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
信託報酬	ありません。
信託財産留保額	追加設定時、一部解約時にそれぞれ0.15%
委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
購入の可否	日本において一般投資家は購入できません。

▶ FOFs用リート・アジアミックス・ファンド(適格機関投資家専用)

形態	国内籍投資信託
主要投資対象	リート・アジアミックス・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を含むアジア・オセアニア各国・地域に上場している不動産投資信託(リート)に投資を行います。 ● 個別銘柄の選択にあたっては、収益の成長性に加え、配当利回り等のバリュエーションに着目して投資します。また、各国・地域への投資配分比率は、市場規模、流動性、市場見通し等を総合的に勘案し決定します。 ● 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● リートへの実質投資割合には、制限を設けません。 ● 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
信託報酬	純資産総額に対して年0.044% (税抜き0.04%)
信託財産留保額	一部解約時に0.3%
委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

- 投資対象とする投資信託においてデリバティブ取引を行う場合は、価格変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
- 投資対象とする投資信託において外国為替予約取引を行う場合は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

※投資対象とする投資信託においては、有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等を負担しますが、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

基準価額の変動要因



- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。



価格変動リスク

株式市場リスク…株価の下落は、基準価額の下落要因です

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

債券市場リスク…債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

不動産投資信託(リート)に関するリスク…リートの価格の下落は、基準価額の下落要因です

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。



信用リスク…債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。



為替変動リスク…部分的な為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は軽減されます

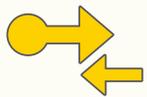
ファンドは、実質組入外貨建資産の一部について対円での為替ヘッジを行うことがあります。為替ヘッジが行われていない部分については為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する(円高となる)場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

為替ヘッジが行われている部分については為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。



カントリーリスク…投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。



流動性リスク…市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点



- ファンドのお申込みに関しては、クーリング・オフ制度の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

リスクの管理体制

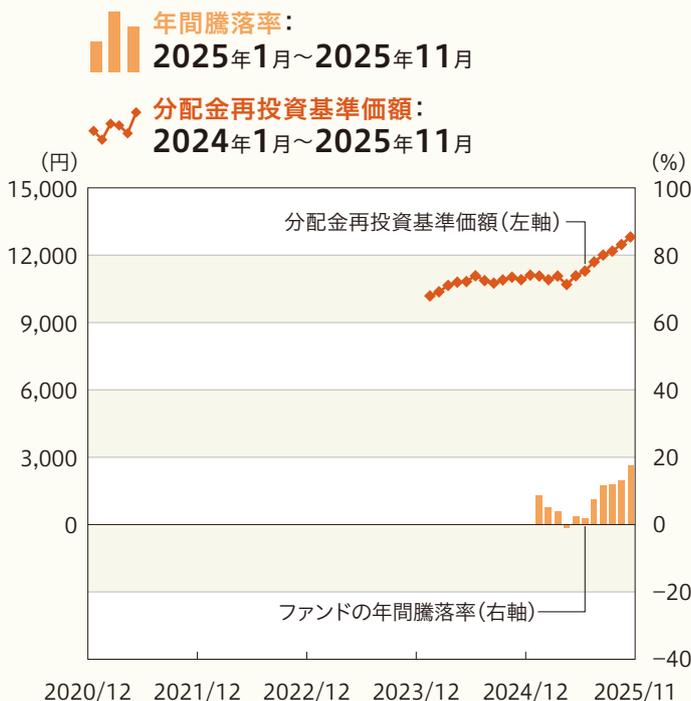


- 委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、運用リスク管理を行っています。
- リスク管理担当部は、信託約款等に定める各種投資制限やリスク指標のモニタリングを実施し、制限に対する抵触等があった場合には運用部門に対処要請等を行い、結果をリスク管理会議へ報告します。また、ファンドのパフォーマンスの分析・評価を行い、結果を運用評価会議等へ報告することで、運用方針等との整合性を維持するよう適切に管理しています。さらに、流動性リスク管理について規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングやストレステストを実施するとともに、緊急時対応策等の策定や有効性の検証等を行います。なお、当該流動性リスクの適切な管理の実施等について、定期的にリスク管理会議へ報告します。
- コンプライアンス担当部は、法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行い、結果をコンプライアンス会議に報告します。

(参考情報) 投資リスクの定量的比較

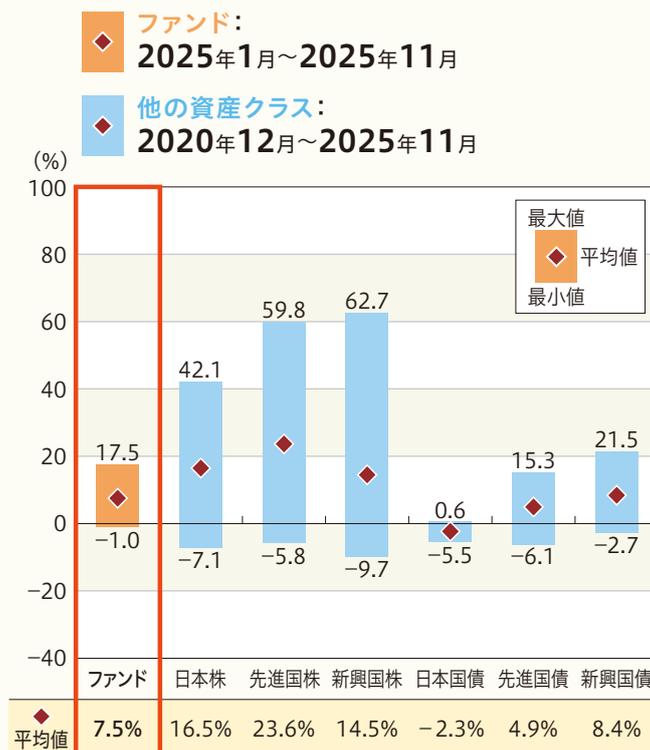
ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。



ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。
※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。
※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

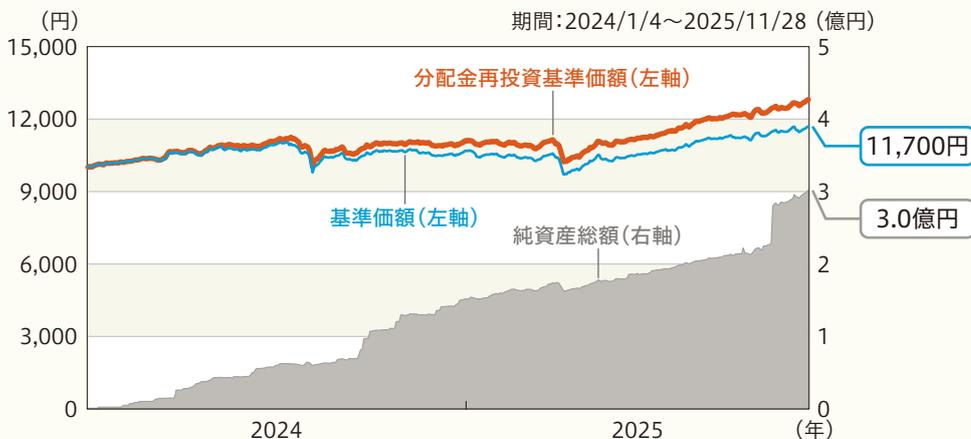
各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。
※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額、基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※分配金再投資基準価額は、上記期間における分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算した価額です。

分配の推移

決算期	分配金
2025年11月	110円
2025年 9月	110円
2025年 7月	100円
2025年 5月	100円
2025年 3月	50円
直近1年間累計	570円
設定来累計	980円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
 ※直近5計算期間を記載しています。

主要な資産の状況

■三井住友DSインカムバランスNISAファンド(予想分配金提示型)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	53.19
親投資信託受益証券	日本	43.79
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		3.02
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託受益証券	FOFs用配当フォーカスファンド(適格機関投資家専用)	22.25
日本	親投資信託受益証券	グローバル好配当株マザーファンド	21.91
日本	親投資信託受益証券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド	21.88
日本	投資信託受益証券	FOFs用Jリート・アジアミックス・ファンド(適格機関投資家専用)	21.53
日本	投資信託受益証券	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド(適格機関投資家専用)	9.41

※比率は、ファンドの純資産総額に対する時価の比率です。
 ※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

▶ 投資対象とする投資信託の現況

■ FOFs用配当フォーカスファンド (適格機関投資家専用)

当該投資信託が投資している「配当フォーカスマザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
日本	株式	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.48
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.32
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.95
日本	株式	住友電気工業	非鉄金属	1.73
日本	株式	いすゞ自動車	輸送用機器	1.67
日本	株式	日本たばこ産業	食料品	1.61
日本	株式	兼松	卸売業	1.53
日本	株式	三機工業	建設業	1.50
日本	株式	NTT	情報・通信業	1.49
日本	株式	KDDI	情報・通信業	1.49

※比率は、配当フォーカスマザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■ グローバル好配当株マザーファンド

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
フランス	株式	TOTALENERGIES SE	エネルギー	5.06
ケイマン諸島	株式	SITC INTERNATIONAL HOLDINGS	運輸	4.43
シンガポール	株式	DBS GROUP HOLDINGS LTD	銀行	4.02
スペイン	株式	BANCO BILBAO VIZCAYA ARGENTA	銀行	3.75
台湾	株式	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	半導体・半導体製造装置	3.29
オーストリア	株式	BAWAG GROUP AG	銀行	3.04
フランス	株式	BUREAU VERITAS SA	商業・専門サービス	2.92
スペイン	株式	INDUSTRIA DE DISEÑO TEXTIL	一般消費財・サービス流通・小売り	2.86
スペイン	株式	IBERDROLA SA	公益事業	2.82
アメリカ	株式	CHEVRON CORP	エネルギー	2.76

※比率は、グローバル好配当株マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■ FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド (適格機関投資家専用)

当該投資信託が投資している「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	社債券	FUKOKU MUTUAL LIFE INSUR	6.800	—	8.63
日本	社債券	NOMURA HOLDINGS INC	6.070	2028/07/12	7.57
日本	社債券	ASAHI MUTUAL LIFE INSURA	6.900	—	7.54
日本	社債券	NIPPON LIFE INSURANCE	2.750	2051/01/21	6.56
日本	社債券	85 東京電力PG	1.803	2029/10/09	4.63
日本	社債券	3 大和証券G 劣FR	2.199	—	4.62
日本	社債券	3 東急不動産劣FR	2.208	2060/03/12	4.62
日本	社債券	1 ひろぎんHD	1.721	2030/12/05	4.62
日本	社債券	41 KDDI	1.746	2030/12/04	4.62
日本	社債券	1 東北電力劣後FR	1.545	2057/09/14	4.62

※償還期限は、償還日の定めのない永久債の場合、「—」と記載しています。

※比率は、ジャパン・クレジット・マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

基準日: 2025年11月28日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

■コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
アメリカ	社債券	D.R. HORTON INC	5.000	2034/10/15	1.64
アメリカ	社債券	COMCAST CORP	5.300	2034/06/01	1.39
アメリカ	社債券	ENTERPRISE PRODUCTS OPER	5.200	2036/01/15	1.38
アメリカ	社債券	THERMO FISHER SCIENTIFIC	5.404	2043/08/10	1.24
アメリカ	社債券	AMPHENOL CORP	5.250	2034/04/05	1.13
アメリカ	社債券	GILEAD SCIENCES	1.650	2030/10/01	1.08
アメリカ	社債券	UNILEVER CAPITAL	3.500	2028/03/22	1.07
アメリカ	社債券	KENVUE INC	5.100	2043/03/22	1.04
オランダ	社債券	SIEMENS FINANCIERINGSMAT	1.700	2028/03/11	1.03
アイルランド	社債券	TRANE TECH FIN LTD	5.100	2034/06/13	1.00

※比率は、コーポレート・ボンド・インカムマザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

■FOFs用Jリート・アジアミックス・ファンド(適格機関投資家専用)

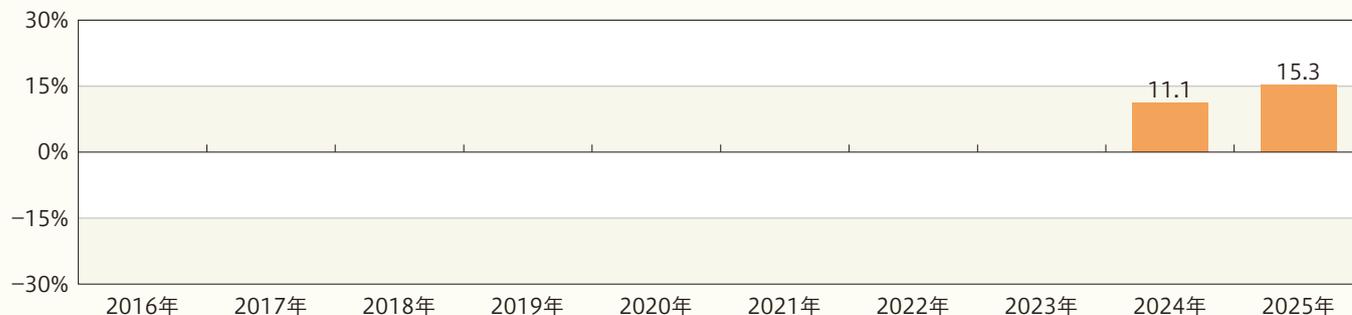
当該投資信託が投資している「Jリート・アジアミックス・マザーファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は、以下の通りです。

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
オーストラリア	投資証券	GOODMAN GROUP	6.07
シンガポール	投資証券	CAPITALAND INTEGRATED COMMER	5.32
香港	投資証券	LINK REIT	4.80
日本	投資証券	GLP投資法人	4.35
シンガポール	投資証券	CAPITALAND ASCENDAS REIT	3.80
日本	投資証券	日本都市ファンド投資法人	3.36
日本	投資証券	アクティビア・プロパティーズ投資法人	3.14
オーストラリア	投資証券	STOCKLAND	2.96
日本	投資証券	大和証券オフィス投資法人	2.90
日本	投資証券	大和証券リビング投資法人	2.59

※比率は、Jリート・アジアミックス・マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。分配実績がない場合は、基準価額の騰落率です。

※ファンドが設定された年の収益率は、設定日から年末までの騰落率です。

※2025年の収益率は、年初から基準日までの騰落率です。

※ファンドにはベンチマークはありません。

お申込みメモ



購入時

購 入 単 位	お申込みの販売会社にお問い合わせください。
購 入 価 額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購 入 代 金	販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金時

換 金 単 位	お申込みの販売会社にお問い合わせください。
換 金 価 額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換 金 代 金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

申込関連

申 込 締 切 時 間	原則として、購入・換金の申込みにかかる、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、お申込みの販売会社にご確認ください。
購 入 の 申 込 期 間	2026年2月13日から2026年8月12日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
申 込 不 可 日	以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。 ● ニューヨークの取引所の休業日 ● ニューヨークの銀行の休業日
換 金 制 限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込みに制限を設ける場合があります。
購 入 ・ 換 金 申 込 受 付 の 中 止 及 び 取 消 し	取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付中止や既に受け付けた購入・換金申込みの取消しをする場合があります。

決算日・収益分配

決 算 日	毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の15日(休業日の場合は翌営業日)
収 益 分 配	<p>年6回決算を行い、分配方針に基づき分配を行います。(委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。)</p> <p>分配金受取りコース:原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。</p> <p>分配金自動再投資コース:原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。</p> <p>※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。</p>

お申込みメモ



その他

信託期間	無期限(2024年1月4日設定)
繰上償還	<p>以下の場合には、繰上償還をすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 繰上償還をすることが受益者のため有利であると認めるとき ● 残存口数が30億口を下回る事となったとき ● その他やむを得ない事情が発生したとき
信託金の限度額	4,000億円
公 告	原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(https://www.smd-am.co.jp)に掲載します。
運用報告書	毎年5月、11月の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて受益者へ交付します。
基準価額の 照会方法	ファンドの基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけます。また、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊紙面に、「はぐニー予想」として掲載されます。
課税関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 ● 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ● 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ● 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 <p>※上記は、2025年11月末現在のもので、税法が改正された場合等には、変更される場合があります。</p>

ファンドの費用・税金



■ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時・換金時

購入時手数料	購入価額に 3.3% (税抜き3.0%) を上限 として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 購入時手数料は販売会社によるファンドの募集・販売の取扱い事務等の対価です。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.13% を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

保有時

運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの純資産総額に年0.957% (税抜き0.87%)の率を乗じた額とします。運用管理費用(信託報酬)は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。</p> <p><運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜き)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>料率</th> <th>役務の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年0.42%</td> <td>ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年0.42%</td> <td>交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年0.03%</td> <td>ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。</p>	支払先	料率	役務の内容	委託会社	年0.42%	ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価	販売会社	年0.42%	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価	受託会社	年0.03%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
支払先	料率	役務の内容											
委託会社	年0.42%	ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価											
販売会社	年0.42%	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価											
受託会社	年0.03%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価											
投資対象とする投資信託	年0.0242% (税抜き0.022%) 程度* (基本資産配分による試算)												
実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して 年0.9812% (税抜き0.892%) 程度*												
<p>*投資対象とする一部の投資信託において運用管理費用(信託報酬)がかかるほか、各投資信託においてその他の費用・手数料がかかります。その他の費用・手数料は運用状況等によって変動するため、事前に料率等を示すことができません。上記の料率は、2025年11月末現在の情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。</p>													
その他の費用・手数料	<p>以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 監査法人等に支払われるファンドの監査費用 ● 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料 ● 資産を外国で保管する場合の費用 等 <p>※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>												

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

ファンドの費用・税金



■税金

税金は表に記載の時期に適用されます。

以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

分配時

所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
----------	-------------------------------

換金(解約)時及び償還時

所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%
----------	--

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※上記は、2025年11月末現在のものです。

(参考情報) 総経費率



直近の運用報告書の対象期間(2025年5月16日~2025年11月17日)における当ファンドの総経費率(年率換算)は以下の通りです。

投資対象とする投資信託(以下、投資先ファンド)の費用は、その他費用に含めています。なお、当ファンドの費用と投資先ファンドの費用の対象期間は、異なる場合があります。

総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
1.04%	0.96%	0.08%

※上記は、対象期間の運用報告書に記載されている総経費率(原則として、購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税は含まれていません。投資先ファンドは、原則として、売買委託手数料、支払利息および有価証券にかかる税金は含まれていません。)です。

※当ファンドおよび投資先ファンドが上場投資信託(ETF)および上場不動産投資信託(REIT)に投資している場合、当該ETFおよびREITの管理費用等は含まれていません。

※計算方法等の詳細は、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。なお、新たな対象期間にかかる運用報告書が作成され、上記の総経費率が更新されている場合があります。

運用報告書は、委託会社のホームページ(<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>)から検索いただけます。



三井住友DSアセットマネジメント